

5 受精卵移植（E T）を活用した新しい和牛肉生産の取組み

～ 酪農家におけるE T子牛生産の普及に向けて ～

神戸市内では1997年度から、乳牛を借腹に受精卵移植（E T）を活用した和牛肉の生産に取り組んでいる。E Tによる和牛生産は酪農家と肥育農家、及びこうべ育成牧場（公社）が一体となって取り組むことで、地域内一貫生産ができるしくみである。

1 一体的な推進組織の立ち上げ

2001年7月に「受精卵移植生産性向上推進協議会」を設立し、各立場から問題点を提起し検討する等、関係機関が共通認識に立った指導を行っている。

2 和子牛の事故率低減に向けた取組み

育成牧場に導入された和子牛に下痢や肺炎による死亡や発育不良が増えていたため、酪農家と育成牧場を対象に、飼育管理技術の向上による事故率の低減に向けた指導を以下の内容により実施した。

(1) 哺育マニュアルとカルテ作成による管理啓発

現状把握のため、酪農家（50戸）を対象に初乳給与（時期・量・哺乳方法）を中心としたアンケートを行い、要点を整理して「E T和子牛哺育マニュアル」を作成した。また分娩時の状態と出荷までの管理状況（履歴）が明らかとなるよう子牛カルテの記入を呼びかけ、個体管理にあわせた哺育管理の励行を促した。

(2) 育成牧場における哺育管理改善

育成牧場において月1回の体高・体重の測定を行い、過去3か年の測定値から兵庫県の和子牛発育標準を参考に、雌雄別発育指標値を作成した（2000～2002年：700頭）。また、導入3か月齢までの哺育牛を中心とした飼養管理及び環境改善（カルテに基づく個体管理、換気改善、戻し堆肥利用等）に取り組んだ。

表 育成牧場における引取頭数と販売頭数

年度	97	98	99	00	01	02
引取頭数	82	96	183	234	197	182
死亡率(%)	9.8	7.3	12.6	9.0	9.6	6.6
販売頭数	—	67	87	223	216	161

さらにE T協議会による総合的な事故対策（牛舎消毒、バケツ洗浄、疾病予防プログラム等）を実施した。

3 E T利用農家拡大に向けた取組み

不景気による高級肉の需要低迷やBSEによる影響が懸念される中、酪農家におけるE T件数は2001年度の663件（受胎率36%）をピークに減少し、和子牛販売頭数も低下している。E T利用農家を拡大するため酪農家の理解促進を研修会等で啓発した。

酪農家にメリットのある支援とPRの強化

酪農家にとってE T和牛の生産は、①付加価値の高い和子牛（双子）生産による安定収入が期待でき、②発情の見逃し後の移植による分娩間隔の短縮が可能で、③人工授精よりも夏場の受胎率が高い等、経営安定の手段として啓発し活用を推進している。

4 結果

「哺育マニュアルの実践+子牛カルテ添付」で個体管理が可能となり、酪農家と育成牧場の連携強化につながった。また育成牧場における死亡事故率は12%から6.6%へ（表）、日齢増体重では、雌が0.69kgから0.80kg、雄が0.74kgから0.88kgへと改善し発育が向上した。

5 今後の課題

- (1) 酪農家へ販売子牛や枝肉情報のフィードバック
- (2) 肥育農家におけるE T和牛肥育管理技術の改善
- (3) 有利な販売体制への支援と消費者への情報発信

6 おわりに

現在、生産されたE T和牛は「神戸生まれ・神戸育ち和牛」として流通させている。農産物のトレーサビリティによる生産履歴開示への取組みが進められている中で、協議会独自に顔写真や飼養履歴を添付し、より安全で安心な食肉の供給に努めている。市場の枝肉成績は重量・上物率ともに高まっており、今後さらに酪農家と肥育農家がE T事業へ積極的に参画できるよう支援していく。

山谷 千佳子（神戸農業改良普及センター）